



府中国際交流サロン
FUCHU INTERNATIONAL SALON

くろするろ〜ど

2024/9月号 第295号

かいほうし
会報誌

★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★



★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★

〜サロン月間カレンダー〜9月〜

日本語学習会

日時：9月2日(月)～9月30日(月)
月(午前・午後) 水(午後) 金(午後・夜)

場所：会議室・学習室ほか

*土曜学習会は以下の4回です。

日時：9月7・14・21・28日午後2時～4時

場所：学習室ほか

実行委員会

日時：9月11日(水) 午前10時～昼12時

場所：第1会議室

日本語教授法研修会初級II

日時：9月5日から毎木曜・午後2時～4時

場所：第1・2学習室

*詳しくは「みんなの広場」をご覧ください。

防災講座

日時：9月7日(土) 午後2時～4時

場所：プラッツ第2会議室(ル・シーニュ6階)

対象：サロン学習者・ボランティア・市民

参加費：無料

生け花教室

日時：9月13日(金) 午前10時～昼12時

場所：フチュール工芸室

参加費：花代800円

申し込み：9月9日(月)までに事務局へ

府中国際交流サロンは、府中に住む日本人と外国人が、仲良く助け合っただの楽しく生活していくことを願って、活動を続けています。

第109回勉強会～「新ボラさん、ようこそ」

日時：9月18日(水) 午前10時～昼12時

場所：第1・2学習室

対象：新ボランティアと現ボランティア

内容：新ボランティアさんと、現ボランティアさんとの話し合い、教材紹介等々

文化交流部会の市民文化祭いけばな展参加

日時：9月28日(土)・29日(日)

午前10時～午後6時(29日は5時まで)

場所：プラッツ パルトホール(ル・シーニュ5階)

内容：サロンの学習者とボランティアが参加出展

フチュール休館日

9月6日(金)、22日(日)は、フチュール全体がお休みです。

*以上の件について、詳しいことはサロン事務局で聞いてください。



「日本語教授法研修初級 I を終えて」

けんしゅうぶかい かよう ゆみこ
研修部会 萱生 由美子

こんねんど けんしゅう しよきゅうぜんはん がつこのか ぜん
今年度の研修 I 初級前半)は5月9日からの全
10回で、7月25日に無事終了いたしました。講師は
とうきようがいこくごだいがく
東京外国語大学オープンアカデミー講師の山田し
げみ先生で、先生には2019年より4回目(コロナ禍に
より2年間中止)の研修を担当して頂いています。
テキストは『みんなの日本語初級 I』で、研修は25
名の受講生と5名の聴講生(現ボランティア)で、会
場はほぼ満員の状態でのスタートでした。残念なが
ら個々の理由で3名の方達が研修を継続出来なく
なりましたが、22名の方達は7月25日に研修Iを
修了しました。

ことし おおしん じゅこうせい おお
今年も熱心な受講生が多く、グループワークの際
には外国人役になりきって会話が盛り上がっている
グループも多く見受けられました。また、最終日の
きょうあん はつびょう
教案の発表では、レアリア(実物・生教材)の写真、
イラスト、ちらし等を使つての教案は時間を十分に
かけて準備され、よく工夫された内容のものが多く、
みなさんの授業にかける熱意が伝わって来ました。

けんしゅう しよきゅうこうはん がいつか はじまります。そ
して、9月からはいよいよ学習部会での活動がスタ
ートします。各学習部会での皆さまのこれからのご
活躍を楽しみにしております。



じゅこうしゅうりょうしゅう じゅよしみ
受講終了証の授与式

世界の文化

えがお
「笑顔でいただいた

かし
お菓子とチキンライス」

げつようごぜん すずき つねひさ
月曜午前ボランティア 鈴木 恒久

がつよつ か もく か しりょうりきょうしつ がくしゅうしや
7月4日(木)、お菓子料理教室が学習者、ボラン
ティアあわせて20名の参加で行われました。全員を
3班に分け1班はオーストラリア出身のレベッカ
さんによる「Anzac Biscuits」、2班は中国出身の
胡李循さんによる「南瓜餅」、3班はタイ出身の上原
パットさんによる「ヴァローイ」でした。日頃あま
り台所に立ったことのない男性も各班に交じり、衛
生に気を使つてビニール手袋をして前掛けをかけ主
に力仕事で活躍していました。一方、各班とは別の
ばしよ げつよう せわやく のがわ ひとり
場所で月曜ボランティア世話役の野川さんがお一人
でシンガポールのチキンライスを炊飯器で炊いてい
ました。

かくくのおかしづくりのざいりょうはそれぞれに特色があ
り、オーストラリアのBiscuitsはオーツ小麦とココ
ナッツフレークを使い9種類の材料の計量と練り
あわせに班員の皆さんが汗をかいていました。2班
の南瓜餅は3種類の材料で作りますが味の主役、冷
凍かぼちゃを細かく砕くのに手間を取られていま
した。3班のヴァローイは黄色、白のだんごをまるめ
て茹で、ココナッツミルクのスープをかけるので
が黄色と白のだんごを花の形にまとめるのが細か
い作業で他の班の班員の応援を受けて仕上げていま
した。

みなさんのきょうどうさぎょう けつか しゅるい かし
皆さんの共同作業の結果、3種類のお菓子とチキ
ンライスが、なんとか出来上がりました。そして
参加者全員のテーブル前に配膳されて「いただきま
す」の言葉で笑顔とともに食べ始め皆さんの苦労話
のあとに「ごちそうさま、おなか一杯です、また次も
参加したいです」というボランティアさんの言葉で
たのしく じゅりょう
楽しく終了いたしました。

「ゆかたを^きてみました」

7月12日(金)に、浴衣着付け教室がありました。そこに参加した学習者の感想を紹介します。



浴衣教室に参加したみなさん

エラヒ・ブシュラさん (アフガニスタン)

せんしゅうの きんようび に わたしは はじめて ゆかた を きました。わたしの ゆかたの いろ は きいろ でした。わたしは あかるい いろ が すき なので きいろ の ゆかたを えらびました。

ゆかたを きるのは とても むずかしかったです。でも せんせいたちが やさしく おしえてくれたので とても きれいに きることが できました。みなさんの ゆかたすがた も きれいでした。わたしは すばらしい たいけん を することが できました。とても よい おもいで です。どうも ありがとう ございました。

グエン・フォン・ジャンさん (ベトナム)

ゆかた を きたかった ので、うれしかったです。みなさんと かわいいしゃしんで、たのしかったです。この たのしいじかんを くれた、せんせい ありがとうございます。

レ・ティ・ヴァン・ニーさん (ベトナム)

ゆかたも たたみかたも むずかしかった。けれど ゆかたは すきです。もっとながいじかん きて

いたかったです。しゃしん も たくさん とりたかったです。

クリスティーナ・ヘラワティさん (インドネシア)

はじめて ゆかた を みました。ゆかたの 模様 は 花柄 が 多かったですが、私は「水と花の模様」の浴衣を選びました。

帯は とても きつかったけど 綺麗 でした。帯は 折りたたんで 花の 形 を 作ります。ふたつの 色 (赤色と黄色) のリボン 型の 帯は 素敵 でした。それから 花の 形 をした「帯締め」も きれい でした。

浴衣を 着るのは 簡単 そう だったけど 違いました。でも、面白かったです。(聞き書き 水曜学習会 小泉)

フォンタルナウ・リンド・アンナさん (スペイン)

7月の12日には興味を持った外国人の皆さんは浴衣を着るの機会がありました。先生達が着方の説明をしてくれて、皆さんは自分で選んだ浴衣を着せられました。浴衣を着るのは一人でできると言われていましたが、本当に難しそうです。それぞれの外国人は先生を一人に手伝ってもらいました。

先生に着替えてもらいながら、質問するのがチャンスがありました。私の場合はお風呂の浴衣と外での着る浴衣の違いを知りたかったのです。そして、どこで買えるのかも知りたかったです。その後、写真をたくさん撮られました。その日に皆さんは美しく見えました。



『「平和のつどい」に参加して』

8月3日(土)午後1時半から、プラッツ第2会議室において、「平和のつどい」が開催されました。多摩地区に住む外国人5名と府中に住む小中学生がパネリストを務め、ほかに多数の市民も加わり、参加者全員(36名)で「平和」について考え、話し合うという場でした。サロンからは、アルメニアのメールミヤン・デイビッドさん、東トルキスタンのヌルビヤ・マイマイティさんの二人が参加しました。

高野市長の挨拶に続き、基調スピーチとして、5名の外国人(ウクライナ、アフガニスタン、アルメニア、東トルキスタン)が、「平和を感じる文化」「平和が脅かされたこと」「平和を取り戻す行動」について、それぞれの体験と考えを述べました。日野市在住のウクライナ人女性は、10歳の誕生日にキーウ州ブチャの公園で友人とサッカーを楽しんだ時の、父に撮ってもらったという写真をまず紹介し、次に、そこがロシアの爆撃で破壊された写真を、最後に、彼女が属している慈善団体が破壊されたその公園の復興支援作業をしている写真を披露し、「平和と戦争」の現状を紹介しました。

続いて、日本の小中学生の代表が、自分が描く平和像を一小学生男子は、「くらやみ祭」で毎年山車を引き、伝統文化に参加できることが「平和」だと、中学生女子は、いじめにあった友人を助けたことをとおして、いじめがないことが「平和」だと思う一と、それぞれ語ってくれました。

続いて、国ごとに四つのグループに分かれ、そこに市民も参加し、グループワークで「平和」についてそれぞれの考えや意見を交わしました。

デイビッドさんは、自国アルメニアで起きている紛争(ナゴルノ・カラバフの帰属をめぐるアルメニアとアゼルバイジャンとの紛争)を紹介し、平和とは誰の頭と心の中にもあるもので、相手を殴る行動にでる前にその中でストップをかけることの大切さを語りました。ヌルビヤさんは、自国東トルキスタンが今置かれている苛酷な状況を紹介し、自由の尊さを訴えました。

最後に、参加者全員が考えた「平和のキーワード」が紹介され、その中の一つ、「誰もがいつでも笑顔でいられること」というメッセージが強く印象に残りました。しばし「平和」について思いをめぐらせた有意義な2時間半でした。(編集部 和田)



アルメニアの国情を報告するデイビッドさん



私のふるさと ~50~

「世界で行くべき場所~盛岡」

月曜午前ボランティア 森岡 暁子

私のふるすとは岩手県盛岡市です。盛岡市は、昨年アメリカのニューヨークタイムズ紙で「世界で行くべき場所」の第2位(1位はロンドン)に選ばれました。「なぜ?」という声が多かったようですが、盛岡好きの私の友人(東京在住)によると、点在する古い町並みやレトロな建造物をほぼ徒歩で見て回れて、山々に囲まれ、市街地に清流が流れ、緑が多くて気持ちよいということでした。

たしかに盛岡は「ぶらり街歩き」が楽しめる街です。私が中学生の時、アメリカ人の英語の先生が盛岡を歩くときは山をみて方角を確認すると言っていました。市の北西に見える県の最高峰岩手山(2038m)は美しく存在感があり、眺めていると本当に「ふるさとの山に向かいて言うことなし」(石川

啄木) という気持ちになります。市の中心を流れる中津川には、産卵期になると鮭が遡上します。川にかかる橋も、木製の欄干に「擬宝珠(ぎぼし)」とい



欄干に施された擬宝珠

う装飾があり趣があります。最近では川沿いにおしゃれなカフェも増え、散歩の楽しみの一つです。

南部藩の城下町である盛岡には、生業ごとに「紺屋町」(染物屋街)、「鍛冶町」(鍛冶屋街)、「材木町」(北上川沿いの材木屋

街) など、今も町名に名残があり、古い町並みも残っています。

交通の要である盛岡駅は、実は市の中心部から離れています。明治時代の鉄道建設の折、「車止めごときのもの、町中に作るものではない」と、川を一本隔てた遠く離れた原野が駅の建設地となりました。戦時中、鉄道施設を狙ったB29に駅前は空襲を受けましたが、おかげで古い町並みは残りました。

こんな風に、盛岡は保守的な街といわれますが、古いものを守り続けてきて、それが今回の「世界第2位」という結果になったのでは、と思っています。



辰野金吾(東京駅設計)の設計による岩手銀行

みな がくしゅうしゃしょうかい 皆さんよろしく◇学習者紹介

ビレーラ・スラバナ・サンディアさん (インド)

「CoCo壺番屋のカレー、辛いから」

私のニックネームは、サンディアです。アンダラプラデッシュ州グントール市から、2022年8月21日に来日しました。主人が日本企業に勤めているため一緒に来ました。インドでは電子工学と通信を専攻しIT企業で働いていました。日本でもITの仕事がしたいのですが、今は、吉祥寺の丸越で週4回(月火木金)、アルバイトで働いています。



サロンには、2024年4月から来ています。日本語で話す機会がなかったのですが、サロンだと話すことができるので良かったです。

趣味は料理とベランダでハーブを育てることで。料理は、ビリヤニ(バスマティライス、お肉、ひまわりオイル等で作る)や、カレーを作ります。ビリヤニに日本のごはんは合わないです。カレーは毎日、違うカレーを作れます。餃子を作って食べましたが美味しかったです。材料は、新大久保で買います。

好物は、インドの母の魚料理とチキンカレーです。CoCo壺番屋のカレーは、レベル5でも辛いからです。まだ、日本の料理は食べていません。

驚いたことは電車の中で誰も話さないことです。スマホでも話さないですね。運転手がないモノレール(ゆりかもめ)にも驚きました。友だちの車で浜松に行く途中、富士山を見たことは良い思い出です。

困ったことは病院に行ったとき英語が通じなかったことです。(英語の話せる病院を紹介済み)

よく使う日本語は、「一緒に行きませんか?」です。主人と話するときによく使います。(聞き書き・未田)

新ボラさん こんにちわ

「一緒に学びながら楽しみたい」

月曜午前ボランティア 伊藤 礼子

わたしは雪深い新潟県長岡市で生まれ、大好きなコシヒカリをたくさん食べて育ちました。パンも大好きですが、最後に食べたいものは何かと聞かれたら、やっぱり「炊き立てごはんとお漬物」と答えま

す。日本各地の特産物や郷土料理にも興味があり、美味しいものを見つけた時はとても幸せです。食べてばかりいと太るので、テニスを週1回しています。テニスを始めたのは35歳を過ぎてからですが、今では生活の一部となり心も体もリフレッシュしています。若い頃は子どもと一緒にキャンプや旅行などアウトドア中心でしたが、今はもっぱら家の中でアニメや読書を楽しみ、愛猫とのスキンシップで癒しをもらっています。

そんなわたしが日本語ボランティアをしてみたいと思ったのは、息子の高校で多文化に触れたことがきっかけです。様々な国籍をもつ生徒や先生、言葉も日本語だけでなく英語や中国語などが混在している環境。宗教も文化も見た目も違う子どもたちが一緒に活動しているところを見て羨ましく感じました。わたしも色々な国のこと・文化やそこに住む人たちのことを知りたいなと思いました。

日本語教授法研修を受講できたのは本当に幸運でした。日本語の教え方を学ぶのはとても新鮮でおもしろかったです。実際にボランティアをするのは緊張するし不安もあります。でも、まずはお互いを知って一緒に学んでいけたらいいなと、楽しく続けていきたいなと思っています。

「きっかけは、エジプトからの友人…」

月曜午後ボランティア 正村 敦子

はじめまして。9月からボランティアに参加させていただきます正村敦子と申します。趣味は大人になってから始めたピアノ、英会話そして旅行です。

私が受講した理由は、外国の方々とコミュニケーションを取りたいという子供の頃からの思いがあったからです。私は異文化に興味があり、色々調べることが大好きです。

実は、我が家の隣のアパートにエジプトからの留学生が住んでいた時があり、つながりを持ちたいと思っていて私は自分から声をかけて友人関係を築きました。彼女との会話は私の拙い英語と身振り手振りを交えてでした。彼女は全く日本語を理解出来ず不自由な日常生活を送っていたので、教えようと試みましたが、なかなか上手く教えることが出来ませんでした。

この経験から日本語で苦労して生活をしている人々のお手伝いが出来ればと思うようになり、そのきっかけを探していました。今回、日本語教授法を受講して、当初は国語教育と日本語教育との違いに戸惑いましたが、今は理解も進み多くの事を学ばせていただき、山田しげみ先生、諸先輩方に感謝しています。

辛い時間に余裕が出来ましたので、今後も勉強を進めて、是非、このボランティアの仕事を楽しみたいと思っています。



おし かた こんな教え方しています ～ 20 ～

『**之を楽しむ者**』になりたい

きんようごご ボランティア もりた まさはる
金曜午後ボランティア 森田 正治

わたし さくねん がつ きんようび ごごの クラスに さんか
私は昨年(さくねん)の9月(がつ)から金曜日(きんようび)午後の(ごご)クラスに参加(さんか)している新米(しんまい)ボランティアで、担当(たんとう)している学習者(がくしゅうしゃ)さんはシンガポール(しんがぽーる)からいらっしゃった男性(だんせい)です。かれ(かれ)は日本語(にほんご)能力(のうりょく)試験(しけん)合格(ごうかく)といった日本語(にほんご)学習(がくしゅう)の具体的な(ぐたいてき)目標(もくひょう)は持って(も)いません。とにか(と)かく日本語(にほんご)が上手(うま)になりたい、特に(とく)聞くこと(きこ)話すこと(はな)すことが(も)っと滑(なめ)らかに(か)できるよ(よ)うになりたい(な)というお考(かんが)えの方(かた)です。希望(きぼう)は漠然(ぼくぜん)として(し)ていますが、学習意欲(がくしゅういよく)はと(と)ても高(たか)い学習者(がくしゅうしゃ)さんです。

そういう(そ)うい(い)うわ(わ)けで、学習(がくしゅう)は雑談(ざつだん)から入(はい)ります。主(おも)に今日(けふ)ま(ま)での一週(いっしゅう)間(かん)を思(おも)い出(だ)して話(はなし)を(し)てもら(もら)います。もちろ(ち)ん日本語(にほんご)で。こ(こ)ちらも適(てき)度(ど)に質(しつ)問(もん)、10(じゅう)～15(じゅうご)分(ぶん)ほど会(かい)話(わ)を楽し(たの)みます。

つぎに教材(きょうざい)学習(がくしゅう)ですが、以(い)前(ぜん)別(べつ)の所(ところ)で『みんなの日本語(にほんご)』の中国語(ちゅうごくご)版(ばん)を三分(さんぶん)の一(いち)ほど勉(べん)強(きやう)したことがあ(あ)るとのこ(こ)とで、これ(こ)を基(き)本(ぽん)の教材(きょうざい)として使(つか)うこと(こ)にしま(ま)した。よくで(よ)きた教材(きょうざい)ですが、文法(ぶんぽう)上(じやう)は間違(まちが)いではな(な)いがこ(こ)うい(い)う言(かた)はしな(し)ないとい(い)う例文(れいぶん)も散見(さんけん)され(さ)れます。「駅(えき)ま(ま)で迎(むか)えに行(い)きま(ま)しょうか」に「い(い)え、来(き)なくていい(いい)です」。これ(こ)が主(おも)な学習(がくしゅう)で30(さんじゅう)～40(よんじゅう)分(ぶん)。

休憩(きゅうけい)をは(は)さんで『ベーシック漢字(かんじ)ブック』という(い)う教科書(きょうかしょ)で基(き)本(ぽん)になる漢字(かんじ)の練(れん)習(しゅう)を(し)ま(ま)す。シンガポ(しんがぽ)ールの公(こう)用(よう)語(ご)には英(えい)語(ご)と中(ちゅう)国(こく)語(ご)が含(こ)まれてい(い)るそう(そう)で、学習者(がくしゅうしゃ)さん(さん)は漢字(かんじ)にはあ(あ)まり抵(てい)抗(かう)があ(あ)りませ(ませ)ん。が、中(ちゅう)国(こく)語(ご)の簡(かん)体(たい)字(じ)と日(に)本(ほん)語(ご)の常(じょう)用(よう)漢(かん)字(じ)では字(じ)形(かた)や字(じ)義(ぎ)、筆(ひつ)順(じゆん)が異(こと)なるもの(もの)が少(すく)なくない(ない)ので、煩(わづ)を厭(いと)わ(わ)ずその都(つ)度(ど)確(かく)認(にん)して(して)いま(いま)す。「イヌ」は「犬(いぬ)(日(に))」と「狗(いぬ)(中(ちゅう))」。「書(しよ)」の筆(ひつ)順(じゆん)。この学習(がくしゅう)が20(にじゅう)～30(さんじゅう)分(ぶん)。

最後(さいご)に振(ふ)り返(かえ)りと質(しつ)問(もん)の時(じ)間(かん)をと(と)って終(しゆう)了(りやう)です。

こ(こ)うして過(す)ぎた10(じゅう)カ(か)月(げつ)、学習者(がくしゅうしゃ)さん(さん)が倦(う)ま(ま)ず忘(わす)れ(れ)ず、楽(たの)しそ(そ)うに日(に)本(ほん)語(ご)学(がく)習(しゅう)を続(つづ)けてく(く)れてい(い)るこ(こ)とは何(なに)より嬉(うれ)しいの(の)ですが、そ(そ)の一方(いっぽう)で自(じ)分(ぶん)自(じ)身(しん)が如何(いか)に日(に)本(ほん)語(ご)につ(つ)いて、それ(それ)はと(と)りもな(な)おさ(さ)ず日(に)本(ほん)語(ご)につ(つ)いて無(む)知(ち)である(ある)か(か)とい(い)うこ(こ)とを思(おも)い知(し)る10(じゅう)カ(か)月(げつ)

でも(でも)あ(あ)りま(ま)した。

子曰(しいうく)く「之(これ)を(を)知(し)る者(もの)は之(これ)を(を)好(この)む者(もの)に如(し)かず。之(これ)を(を)好(この)む者(もの)は之(これ)を(を)楽(たの)しむ者(もの)に如(し)かず。」と(と)か言(い)うよ(よ)うです。このボラン(ぼらん)ティア(てあ)が好(だい)きな私(わたし)ですが、自(じ)分(ぶん)も早(はや)く「之(これ)を(を)楽(たの)しむ者(もの)」に(に)なり(な)りたい(たい)と思(おも)う今日(けふ)この頃(ごろ)です。

がくしゅう かい 学習会(がくしゅうかい)だより

がくしゅうかいれんらくかいぎ ひら 「学習会(がくしゅうかい)連絡会(れんらくかいぎ)議(ぎ)が開(ひら)かれました」

がつみつ か すい ごぜん じ げつ すい きん がくしゅう
7月(がつ)3日(みつ) (水(すい)) 午前(ごぜん)10時(じ)より、月(げつ)・水(すい)・金(きん)の学(がく)習(しゅう)5部会(ぶかい)の部会(ぶかい)長(ちやう)、土曜(どよう)学(がく)習(しゅう)会(かい)の代(だい)表(ひやう)、マッ(マッ)チン(チン)グ(グ)担(たん)当(とう)、そ(そ)して役(やく)員(いん)が出(しゅつ)席(せき)し、学(がく)習(しゅう)会(かい)連(れん)絡(らく)会(かい)議(ぎ)が開(ひら)かれました。この議(かい)議(ぎ)は、各(かく)部会(ぶかい)の横(よこ)のつな(つな)がり(が)り(を)密(みつ)に(に)するた(た)めに、これ(こ)ま(ま)で不(ふ)定(てい)期(き)で、年(ねん)に1(いち)～2(に)回(かい)開(かい)催(さい)し(し)てき(き)ま(ま)した。今(こん)回(かい)は、各(かく)学(がく)習(しゅう)会(かい)の日(ひ)頃(ころ)の学(がく)習(しゅう)の様(よう)子(す)やマッ(マッ)チン(チン)グ(グ)や課(か)題(だい)点(てん)等(とう)々(ず)、そ(そ)れぞ(ぞ)れの学(がく)習(しゅう)会(かい)がど(ど)のよ(よ)うな進(すす)め方(かた)を(を)して(して)い(い)るか(か)を報(ほう)告(こく)し、話(は)し合(あ)い(を)持(も)ちま(ま)した。内(ない)容(よう)の詳(しょう)細(さい)は、7月(がつ)実(じつ)行(こう)委(い)員(いん)会(かい)の議(ぎ)題(だい)レジュ(レジュ)メに議(ぎ)事(じ)録(ろく)と(と)して添(てん)付(ぷ)してあ(あ)りま(ま)すので、各(かく)部会(ぶかい)会(かい)長(ちやう)を(を)と(と)お(お)し(し)てご(ご)覧(らん)く(く)だ(だ)さい。報(ほう)告(こく)さ(さ)れた(た)主(おも)な内(ない)容(よう)は以(い)下(か)の(の)と(と)お(お)り(り)です。

■月曜(げつよう)午(ご)前(ぜん)

- * ボラン(ぼらん)ティア(てあ)と学(がく)習(しゅう)者(しゃ)の教(か)数(すう)はバ(バ)ラン(らん)ス(す)が取(と)れてい(い)る。
- * 日(に)本(ほん)語(ご)能(のう)力(りょく)試(し)験(けん)を(を)受(う)ける人(ひと)の対(たい)応(おう)が難(むず)か(か)い。

■月曜(げつよう)午(ご)後(ご)

- * 短期(たんき)滞(たい)在(ざい)の(の)人(ひと)のマッ(マッ)チン(チン)グ(グ)が大(たい)変(へん)。
- * ボラン(ぼらん)ティア(てあ)と学(がく)習(しゅう)者(しゃ)がセ(セ)ット(と)で他(た)部会(ぶかい)か(か)ら移(い)動(どう)する申(もう)し込(こ)み(み)は、特(とく)殊(じゆ)な場(ば)合(がい)以(い)外(がい)は断(ことわ)つ(つ)てい(い)る。
- * 学(がく)習(しゅう)者(しゃ)の希(き)望(ぼう)とボラン(ぼらん)ティア(てあ)のや(か)た方(かた)でミ(ミス)マ(マ)ッ(マ)チ(チ)のケ(ケ)ース(す)があ(あ)つ(つ)た。

- * 学(がく)習(しゅう)者(しゃ)の希(き)望(ぼう)は聴(き)くべ(べ)きだ(だ)。

■水曜(すいよう)午(ご)後(ご)

- * ボラン(ぼらん)ティア(てあ)不(ぶ)足(そく)だ(だ)が、1(いち)対(たい)2(に)、1(いち)対(たい)3(さん)のよ(よ)うに複(ふく)数(すう)対(たい)応(おう)を(を)して(して)い(い)る。
- * 教(おし)え方(かた)が難(むず)か(か)く(く)てわ(わ)か(か)ら(ら)ない(ない)か(か)ら出(で)たく(たく)ない(ない)とい(い)う学(がく)習(しゅう)者(しゃ)が(が)い(いた)。

■金曜午後

* ボランティアと学習者のマッチングは2年交代を原則としている。

* 藍染体験やお楽しみ会など、学習以外の交流も工夫している。

■金曜夜

* 日本語能力試験を受ける人が多く、試験用の問題集が足りない。

* マッチングは、できるだけ同じペアにしている。

* 新規学習者には、必ずみんなの前で自己紹介のスピーチをしてもらっている。

ほかに特筆すべきこととして、学習者のニーズとボランティアの教え方が噛み合わず、学習者の学習意欲がそがれてしまったという事例が何件か報告されました。まず、学習者のニーズを確認することはボランティアにとって基本だということが確認されました。(和田)

みんなの広場

「日本語教授法研修会初級Ⅱ

開催のお知らせ」

前期・日本語教授法研修会初級Ⅰに続き、下記の要領で全10回にわたる後期・日本語教授法研修会初級Ⅱを開催します。

■日程：9月5日(木)～10月24日(木)の毎木曜

* 以上の全8回は山田しげみ先生による講義

* 特別講座として下記の2回が含まれます。

11月9日(土)「日本語の音声について」

講師は中村則子先生(早稲田大講師)

11月16日(土)「外国人の在留資格について」

講師は寺岡奈都子氏(行政書士)

■時間：午後2時～4時

■場所：「フチュール」第1・2学習室

■対象：前期受講者と現ボランティア(若干名)

■テキスト代：『みんなの日本語初級Ⅱ』(2390円)

■教授法研修講師：山田しげみ先生(東京外大オープンアカデミー講師)

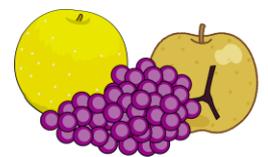
* なお、現ボランティアの方々も受講、または希望する回の聴講(5名まで)ができます。詳しいことはサロン事務局にお問い合わせください。(研修部会)

へんしゅうこうき ～編集後記～

この原稿を書いている今日(8月26日)も、朝から30度を超える暑さです。夏の風物詩の高校野球も、優勝旗は京都にもたらされて幕を閉じ、2学期が始まる9月2日には、少しは秋の気配が忍び寄ってきていることを願っています。

いろいろな活動が復活している中、その体験や報告原稿がたくさん集まり、9月号は満稿状態で、何本かは泣く泣く10月号にまわさざるを得ませんでした。せつかく締切りに間に合わせて書いてくださった方々にはお詫び申し上げます。

初めて着た浴衣、日本の子どもたちと交わした平和観などなど、学習者の方々も体験された喜びや驚きに触れてみてください。また、9月から活動を開始される新ボランティアさんも、今月号から順次紹介していきます。是非、お名前を覚えてエールの声をかけていただければ幸いです。10月号も、学習者とボランティアの投稿を満載の予定です。どうぞお楽しみに!(和田)



【創刊】1997年11月

【編集】編集長：和田泰弘

会報部会：末田・和田・堤林・岩城

【事務局】電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

